

1 既存の施設（白石中学校校舎等）を利用しての1校への再編

※ ①令和6年度に再編の場合の学校規模（生徒数：585人、普通学級数：15学級）での考えられるメリット・デメリット、②教科担任数、③部活動が衰退しない規模、④その他

これらを考慮した意見欄

- ・新築する場合、どこに建設しても通学距離6km以内に入らない生徒が出るため、既存の施設を使った方がよい。
- ・白石地域の人は、今までと変わらないが、福富、有明地域の方はどう思われるか。
- ・通学距離6km以上となる生徒のうち38人は福富地域の生徒であり、通学が大変になる。
- ・3年生になると体力がついているので問題ない。
- ・教師の数も増え、生徒にとってはプラスになる。
- ・現白石中学校校舎は、近くに社会体育館もあり、環境が良い。
- ・部活動数も増えると思う。
- ・低学年の生徒にとっては、通学が大変。
- ・現白石中学校校舎は、耐用年数ですでに20年ほど経過しており、残りの耐用年数と費用がどうなるのか。
- ・白石中学校の既存の校舎を使うことには、異論はない。
- ・新築となれば、財政負担が厳しく難しいと感じている。
- ・小学校の統合再編も控えているので、既存施設を使うことについては必然的であり、当面は問題ないと思う。
- ・新築するにしても、後々子どもが減少していくので、それを見越して作らないといけない。
- ・部活動については、かなり充実できるのではないか。
- ・統合再編し、生徒が585人に増加した時の、施設・設備の傷み方はどうなのか。
- ・教室数が不足するが、予算・土地の問題がある中で増築の仕方を問いたい。
- ・個人的には新築を希望する。
- ・財源の確保をきちんと行い、増改築を行って欲しい。
- ・子どもの数も減っているので、新築する必要はないと思う。
- ・町の予算的にも既存校舎を使うべき。
- ・生徒数580人規模の学校と現白石中学校との施設面積比較をしないと増築の話がしづらい。
- ・競い合いの場、クラスの変動も可能。
- ・特別支援学級数と教室数等の課題がある。
- ・現白石中学校よりもう少し東側に新築し、既存校舎は、小学校の統合再編へと活かしてもよいのかなと思う。
- ・教職員側にもメリットがある。
- ・生徒を含めた人間関係の構築につながる。

2 通学距離（直線距離6 km以上）への対応

※ 具体的な方法話し合うのではなく、スクールバスの運行や既存の公共交通機関の運賃補助など、通学支援が必要か否かの意見

意見欄

- ・スクールバスを利用した時の利用状況がどうなるのか。片道のみ利用となったりするのであれば、タクシーとの経済比較が必要ではないか。
- ・スクールバスを通学以外に利用できないか。（老人会等）
- ・スクールバスに一般の方が乗ることができないのであれば、いこカーを拡充して利用することにより、一般の方も利用しやすいようにしてはどうか。
- ・スクールバスの支援は必要。スクールバスだと、帰りも安心できる。
- ・スクールバスを利用するのであれば、集合場所を決めて、そこまでは歩かせていいのではないか。
- ・距離により、きちんと規定をした方がよい。
- ・自転車通学ばかりとなった時の自転車置き場の確保ができるかが心配。
- ・雨の日は、保護者の送迎などで、校門前の交通渋滞が起こる可能性があるのではないか。
- ・親としては、自宅近くまでスクールバスが迎えに来てくれたら安心できる。
- ・6 kmぎりぎりの家の生徒は、申請して許可をもらえるようにしてほしい。（特に女子）
- ・雨が降った時のことを考えると、スクールバスがあったほうがよい。
- ・まずは外灯など、通学路の安全確保を考えるべき。
- ・スクールバス支援は必要だが、部活動終了後、バスに乗らない生徒も出てくるのではないか。
- ・いこカーを利用するのもよいと思う。
- ・利用するかしないかは本人の選択。
- ・義務教育なので、何らかの通学支援は必要。（特に朝）
- ・小学校の通学支援は必要だと思うが、中学校は違う方法でもいいのかなと思う。
- ・中学生は体力面では大丈夫だと思うが、安全面の確保からも通学支援は必要。
- ・部活動の終了時間を考慮した措置が必要。
- ・スクールゾーンの整備がきちんとできるのなら、支援は必要ではないこともある。
- ・スクールバス購入までは必要ないと思う。

<p>3 中学校の再編時期</p> <p>※ 資料22の予想では、「1校目の開校年度を2024年度（令和6年度）」としており、資料29の素案でも「中学校の再編は2024年度（平成36年度）を目途」としている。再編中学校の開校が、この時期で適当か否かの意見。</p>
<p>意見欄</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年は妥当である。 ・令和6年にこだわらず、早めにできないか。（2年の工事期間を短縮してでも） ・可能な範囲で、1年でも早ければ早い方がよい。 ・令和5年度開校を目指す。